

百万石蝶談会

NO. 93 DECEMBER 1991



## ウラギンシジミ吸水、吸汁例

嵯峨井淳郎

1990年、石川県石川郡河内村板尾で時々見かけた本種の吸水、吸汁行動数例を記録しておく。

## 1. 雨上がりの水溜り

7月から8月にかけて金沢市内は晴天の連続であったが、当地ではしばしば落雷、降雨があり、その後のジリジリ照りつける林道の水溜りに10~20頭の♂の吸水行動を目撃した。これは当地に限らず過去にもよく目撃できた事例である。

## 2. 早朝の落葉上

早朝にもかかわらず太陽がジリジリ照りつけるため、当地の板尾川縁りによく朝モヤが立ち昇る。林道上の朝露を含んだ落葉（遠く離れて見ると水蒸気が立ち昇っている）に5~6頭の♂が静かに吸汁していた。

## 3. ノネズミの死体

当地に朝早く出かけると林道上に5~6cm程度のノネズミ（種不明）の死体をよく見かけた。その数は多い時で5~6体にもなる。ウラギンシジミもさることながら、ミヤマカラスアゲハの♂もこの死体に吸汁に来ているのを数回目撃した。

余談ながら筆者の足で板尾林道を往復すると1時間強の行程であるが、帰路このノネズミが必ず綺麗さっぱり無くなっているのは… わからない。

## 4. 蛇の死体

三角頭の赤い3~40cm程度の小型種「ヤマカガシ」。石をぶつけて涌き水の流れの脇に意図的に置いておいた。（自然状態でないのが残念）

翌日腐敗臭にミヤマカラスアゲハ、ゴマダラチョウ、サカハチチョウ、キチョウ、ルリシジミそして本種が群がっていた。

## 5. ミミズの死骸

5~6cm長のミミズの死骸に、10~20頭のオス吸汁集団を3~4集団目撃。歩いて通り過ぎるまで気がつかず、舞い散る銀鱗に気づいた例である。当地では本種の他、オオオサムシがミミズに喰いついているのをよく目撃する。

## 6. 獣糞

これも過去によく目撃事例のあるもので、岩の上、林道脇にタヌキ・キツネ・ムジナかが、これ見よがしに残置してある糞に3~4頭の吸汁集団を目撃。

## 7. トラップに使ったカラスアゲハ

前日、吸汁地点でトラップに使ったカラスアゲハ♂の腹部に2♂の本種

を確認。何か少し恐ろしい光景に感じた。

トラップに使ったものは大概、翌日腹部はアリなどに持ち運ばれて無くなっていることが多いのだが、この時は残されたままであった。

#### 8. オニグルミの実

9月に入るともう落葉、秋の気配は濃い。台風一過、板尾林道上にオニグルミが多数落下していた。その落下した実の腐敗した皮に吸汁している本種を5～6頭を確認した。

#### 9. 小便

下の話で恐縮であるが、男子たるもの時々仕掛ける例のヤツであるが、炎天下は意外に効果があり、前夜に飲酒、飲食（特に中華系）したものを排泄しようものなら効果は抜群。数分で蒸発したあとに飛来静止し、口吻を延ばすみを2～3例目撃した。

#### 10. 汗

最後に肥満度〇〇（あえて度数はないしよ）の筆者は無類の汗かき。当地の林道を往復しようものなら、たちどころに大汗。身に着けているシャツに1～2頭は何時でも群がる。かつて同村の奥池で山菜採りの折、シャツ、軍手に来たスギタニルリシジミの目撃例が筆者にはある。

ウラギンシジミの吸水、吸汁事例を3～4例のつもりで書き始めたが、意外に多く筆者自身驚いている。暑い夏、特に酷暑と言われたこの年の夏、毎週フィールドに出かけて得た事例であり、歩かないと出てこない原稿であるということが実感として残った。

《さがい じゅんろう 〒921 金沢市額谷3-18-2》

### 能登におけるシータテハの記録

江口元章

1991年5月5日に志賀町宿女にてシータテハ1♀を捕獲した。落葉樹林に囲まれた道沿いの草地に、翅を開いて止まっていた。付近を探してみたが、同じように止まっていたのはキタテハのみであった。石川県では白山山麓には分布しているが、おそらくは能登半島で発見されたのはこれがはじめてであろう。食樹がニレ科のエノキなどであるので、繁殖している可能性も否定できないが、おそらく白山山系などの生息地から偶発的に飛来したものであろう。越冬後の春にはシータテハが本来の生息地から離れた平野で発見されることが多いという（藤岡、1975）。

シータテハ 1991年5月5日 羽咋郡志賀町宿女 1♀ 江口元章

《参考文献》 藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑. 講談社

《えぐち もとあき 〒920 金沢市泉野出町3-1-16》

ウラクロシジミの採幼について

勝海雅夫

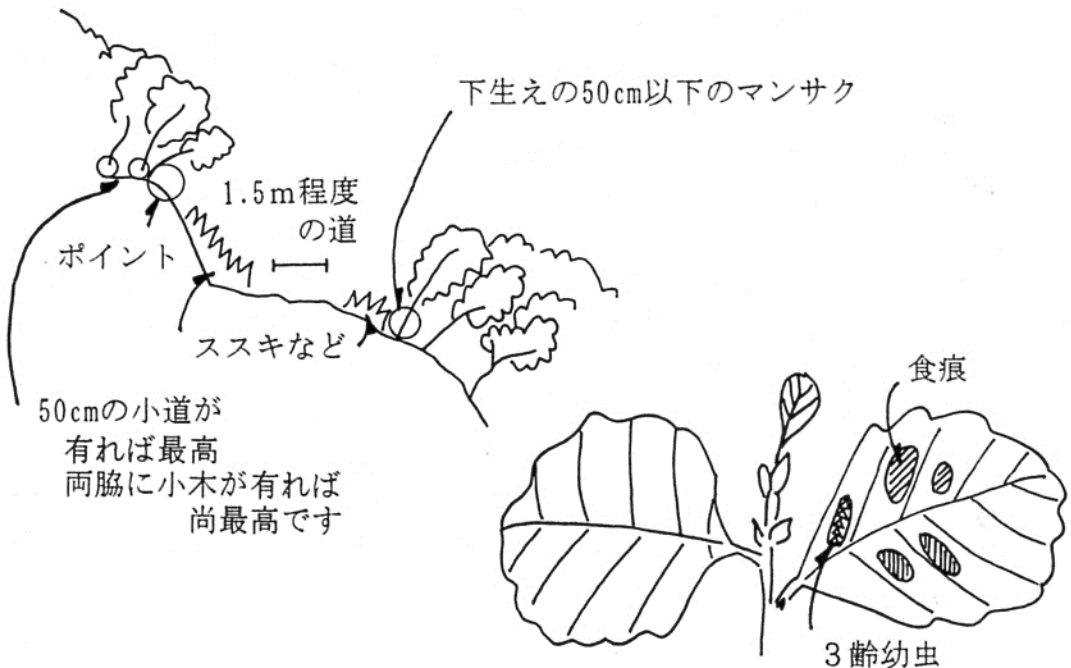
ゼフィルスの採幼では、ウラゴマダラシジミ、メスアカミドリシジミ等が良く知られていますが、特にここ数年発生個体が多いウラクロシジミの採幼を、ゴールデンウィークに挑戦しましたので、報告いたします。

ウラクロシジミ採幼のコツは次の2点です。

- 1 食痕に特徴がある。
- 2 卵と同じように、薄暗い林道の小道に生えている50センチ程の  
小木を狙う。

以上2点に絞れば簡単に採れると思います。もちろん1メートル以上のマンサクにも幼虫は付いていますが、その時は下から上へマンサクを見上げれば、葉裏の葉脈に沿って1センチ弱の薄黄緑色の幼虫がいるはずですが、ただし、この方法ではあまり効率が良くないと思います。採幼の結果は下記のとおりです。

1991年5月1日	石川県金沢市倉ヶ岳	25幼	勝海雅夫
1991年5月3日	石川県金沢市医王山	2幼	勝海雅夫
1991年5月5日	富山県上平村小来栖	20幼	勝海雅夫



《かつみ まさお 〒921 金沢市西金沢新町6番》

## アサギマダラを26日後に再捕獲

松井 正 人

押水町の宝達山は秋季に多数のアサギマダラが観察されることで知られているが、調査が進むにつれ夏季からある程度まとまって見られる事がわかってきた。

1991年は6月から調査を始めたが、天候不順で休日と晴天がうまくかみあわず、観察できた数は下記の如くかなり少ないものとなった。

1991年押水町宝達山ピークにおけるアサギマダラ観察数

日付	6. 15	6. 22	7. 6	7. 27	7. 28	8. 10	8. 24
天候	?	晴	晴	くもり	晴	くもり	晴
観察数	0	0	1♂	1♂	0	19♂1♀	6♂
日付	8. 29	9. 1	9. 5	9. 8	9. 16	9. 22	
天候	くもり	晴	晴	くもり	晴	晴	
観察数	0	0	7♂2♀	6♂1♀	0	2♂2♀	

そんな中で8月10日にマーキングした20頭のうちの1♂を、26日後にほぼ同地点(水平距離150m、高低差40m)で再捕獲した。8月10日のマーク時は新鮮だったが、再捕獲時はボロになっていた。

捕獲日時	天候	鮮度	♂♀	前翅長
8月10日 16:00	くもり	新鮮	♂	55mm
9月5日 15:18	晴	ボロ		

アサギマダラは長距離移動することで知られているが、このアサギマダラも何処かへ行って戻って来たものだろうか、それともずっと宝達山に居たのだろうか、気になるところである。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## ゴマシジミの早い目撃記録

竹谷 宏 二

本種の成虫の記録としては、比較的早いと思われるので報告する。

ゴマシジミ 1991年7月14日 白峰村砂御前山 1頭目撃 竹谷宏二

当日は中西重雄氏と2人でポイントのカライトソウの生える岩場を上部まで探索したが、1頭を目撃したのみであった。

《たけたに こうじ 〒924 松任市三浦町44-2》

## 石川県のカミキリムシ科 (その8)

井村正行

連載が中断 (その7:翔NO.65, 1987) してから丸4年経ってしまい、読者諸兄には大変申し訳ないと思っている。この間には新知見も続出し、既に発表済の箇所も訂正しなければならないが、とりあえずは連載を継続し「石川県のカミキリムシ科」を完結させたい。

## 《 フトカミキリ亜科 Subfamily Lamiinae 》

145. ゴマフカミキリ *Mesosa myops* DALMAN

平地からブナ帯上部まで県内に広く分布し、各種広葉樹の伐採木や枯枝等で最も普通に見られる。春から秋まで長期にわたって見られ、特に春から初夏に多くの個体が見られる。

1979年5月28日	1♂1♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行
1990年7月29日	1♀	白峰村大杉谷林道	井村正行

146. カタジロゴマフカミキリ *Mesosa hirsuta* BATES

平地からブナ帯上部まで県内に広く分布し、各種広葉樹の伐採木や枯枝等に見られるが、個体数は少ない。5～9月頃に採集される。

1978年8月19日	1♀	金沢市医王山	井村正行
1980年8月14日	1♂	白峰村大杉谷林道	井村正行

147. タテスジゴマフカミキリ *Mesosa senilis* BATES

低山帯からブナ帯上部まで県内に広く分布し、各種広葉樹の伐採木や枯れ枝等の比較的新しい材に集まる。特にブナ科やオニグルミを好むように思われる。個体数は少ない。4～8月頃採集される。

1979年6月10日	1♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1981年5月31日	1♂	白峰村市ノ瀬	井村正行

148. ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis* BATES

平地からブナ帯上部まで県内に広く分布する。各種広葉樹の伐採木や枯枝等に普通に見られる。5～9月頃採集され、アベマキの枯枝から5月頃に羽化脱出させている。

1984年6月15日	1♂1♀	金沢市俵	井村正行
1991年7月10日	1♂	金沢市粟崎	井村正行

149. マダラゴマフカミキリ Mesosa poecila BATES

本県では、白山山麓のブナ帯で見られ、6月中旬から8月上旬にブナの立枯で採集されている。過去に白山釈迦林道で本種が毎年10頭前後安定して採集できた木があったが、それが倒れてからは毎年2頭程しか採れなくなってしまった。また7月も中旬を過ぎると、新鮮な個体を見るができない。

1979年7月8日	1♂	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1979年6月24日	1♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行

150. シナノクロフカミキリ Asaperda agapanthina BATES

平地からブナ帯まで広く分布する。4月中旬から7月頃まで見られ、各種広葉樹の枯枝や春の若葉のスピーニングで得られ、飛翔中のものも採集されている。普通に見られ個体数も多い。

1979年5月6日	多数	金沢市倉ヶ岳	井村正行
1980年6月15日	1♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行

151. キクスイモドキカミキリ Asaperda rufipes BATES

低山からブナ帯まで広く分布し、各種広葉樹の枯枝にいるものや、飛翔中のものが採集されているが、少ない。また、能登での記録も聞いていない。

1976年6月29日	1♀	金沢市三小牛山	入場 登
1979年7月1日	1♂	金沢市倉ヶ岳	入場 登
1983年6月20日	1♀	白峰村白山釈迦林道	井村正行

152. コブスジサビカミキリ Atimura japonica BATES

平地から低山帯に分布し、4月から8月頃に採集されている。フジやクズの枯枝のビーティング等で採集されている。個体数はあまり多くなく、能登での記録も聞いていない。

1979年5月16日	1♂1♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行
1989年7月13日	2♂	金沢市宝	野中 勝

153. ヒシカミキリ Microlera ptinoides BATES

平地に分布する。加賀市加佐岬にて入場 登氏がハンノキ類の枯枝より採集しているが、ここの個体数は少なくないと思われる。また、松枝 章氏も能登で採集していると聞いている。平地に分布し大変小さな種であるためか、局所的にしか、採集されていない。

1985年6月9日	多数	加賀市加佐岬	井村正行
-----------	----	--------	------

154. クビシロカミキリ Xylariopsis mimica BATES

本種は入場 登氏が、ツルウメモドキの枯枝より採集した1頭の記録しか知られていない。

1973年7月7日 1♀ 金沢市倉ヶ岳 入場 登

155. クリチビカミキリ Sybra kuri OHBAYASHI et HAYASHI

白峰村大杉谷林道でのみ採集されている。5月から6月にブナ科の伐採木上で採集されている。また、松本和馬氏が同地のクリの枯枝より本種を数頭羽化させている。個体数は大変少ない。

1979年6月10日 1♂ 白峰村大杉谷林道 井村正行  
1980年5月 4頭(羽化) 白峰村大杉谷林道 松本和馬

156. キボシチビカミキリ Sybra flavomaculata BREUNING

海岸縁のアカマツの枯枝等より羽化脱出させた記録のみが知られ、屋外での成虫採集はまだされていない。発生期は6～7月と思われる。

1980年6月25日 1♂(羽化) 輪島市曾々木 井村正行  
1980年6月28日 1♀(羽化) 輪島市曾々木 井村正行

157. ヒトオビチビカミキリ Sybra unifasciata FUJIMURA

白山積迦林道の燈火採集で採集した1頭のみが記録されている。

1983年8月22日 1♂ 白峰村白山積迦林道 井村正行

158. シロオビチビカミキリ Sybra subfasciata BATES

低山からブナ帯まで広く分布する。各種広葉樹の伐採木や枯枝等から採集され、燈火にも飛来する。普通に見られ個体数も多い。また、オニグルミより羽化脱出している。

1990年7月29日 多数 白峰村大杉谷林道 井村正行  
1991年6月23日 1♂ 白峰村大杉谷林道 上田 昇

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

○	短 報	25	○
ハイロハナガミキリ	1991年8月13日	尾口村白山小桜平	1♀ 野中 充 目撃
フイロハナガミキリ	1991年8月13日	尾口村白山清浄ヶ原	1♂ 野中 勝 目撃
○			○



## 石川県の注目すべき甲虫数種の記録

野中 勝、井村正行、上田 昇、中西重雄

石川県からは未記録またはごく少数の記録しか存在しないと思われる以下の甲虫を採集しているのです、報告する。

1) フタキボシカネコメツキ *Gambrinus kraatzi* (CANDEZE)

1991年5月18日 金沢市医王山 1♂ 野中 勝 採集

1989年5月20日 白峰村白山釈迦林道 1♀ 野中 勝 採集

全国的に稀な種とされ、石川県からの記録も1、2例と思われる。♂は峠の吹上げで、♀はカエデの花のスイーピングで得られた。

2) ツマグロコメツキ *Ampedus niponicus* (LEWIS)

1991年9月15日 尾口村岩間 2♂3♀ 井村正行、中西重雄 採集

石川県初記録。ミズナラ生木の腐朽部より材内新成虫を得た。

3) ネアカツツナガクチキ *Hypulus cingulatus* (LEWIS)

1989年5月21日 白峰村白山釈迦林道 1ex 野中 勝 採集

石川県初記録と思われる。ブナの立枯上より得た。

4) ヤマトキモンハナカミキリ *Judolia japonica* (TAMANUKI)

1991年6月30日 白峰村大杉谷 1♂1♀ 野中 勝 採集

石川県におけるこれまでの記録は数例と思われる。2頭共一本のクリの大木の花より得た。

5) ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons* (JORDAN)

1991年6月28日 津幡町牛首 1頭 上田 昇 採集

石川県初記録と思われる。伐採木上を歩行していた個体である。

《のなか まさる 〒920 金沢市末町14-70-2》

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

《うえだ のぼる 〒920-01 金沢市百坂町イ27-9》

《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》

## B型のオラン・アスリーは可哀想

指 田 春 喜

日本国内でも蝶（昆虫）の採集で山野に分け入ると、ときたまヒルの被害に会うことがあるが、海外（とくに東南アジア）で採集する場合、このヒルがやっかいである。かなり足まわりをキッチリとしておいても1～2回は誰でもやられているのではないか。

小生の場合、東南アジアのジャングルに入る時は、現在、自衛隊員の使用している編みあげブーツをはいている。川に入ったり、山路を歩いたりの際返しであるから、ゴム製の靴をはいていると直ぐむれてしまい、水虫などの心配がある。その点、この皮製の編みあげブーツは通気性が優れており、かなり満足している。そして、ズボンの裾をこの編みあげ靴の中に入れ、きっちり紐を結べば、ここからヒルに入り込まれることは少ない。それでも、ズボン、シャツとその上を這い上がって来たやつに首すじをやられたことが何回もあった。

今回（マレーシア、1991年8月3日～8月16日）、Tシャツの裾がズボンの中からほんのちょっと出ていたそのスキにやられた。ウエストの右側に、3センチぐらいの大きさのものがいっぺんに4匹も付いていたときはさすがにビックリ！その気持ちの悪さに思わず身震いした。自分の脇腹に4匹もくっついているとは言え、直ぐにそいつに手をだすこともできず、しばしボー然。やっと気を取り直し、虫よけスプレーをひとかけ、ポロツ、ポロツと落っこったこの憎き黒いヤツを竿の端で押し潰したのは言うまでもない。この跡は今でも消えずに、我輩のウエストに点々と今夏の思い出として残っている。それにしても、4匹のヒルにやられても、この85cmの腰回り寸法は少しも変化がなかった。

ところでこのヒルに限ったことではないが、例えば蚊のような吸血動物（昆虫）に対して、血液型がB型の人間がより被害に会うということをご存知であろうか。このことは殺虫剤メーカーであるアース製薬などの実験でも確かめられており、ヒルに対しては、小生の友人達に聞いて回ったところ、この事実とよく一致した。かく言う私もB型である。

マレーシアのジャングルで蝶を追いかけっていると、森の原住民、オラン・アスリーに時々会うことがある。彼等はかなり定住生活をしてきたとはいえ、今だに吹き矢を持ち、狩猟生活をしている。服装といえば、男の多くはパンツひとつ。女性とて、胸はかろうじて隠しているが、かなり粗末なものである。そして足元はというと、もちろん裸足である。ジャングルの中、落葉の上で頭を持ち上げてヒョコヒョコしているあのヒルに対して全くの無防備である。オラン・アスリーにも血液型はあるはずであり、B型のヤツもいるとボクは思うのだがなあ…。

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

## 会員の動き。しゃばの動き

☛上田氏、富山県初記録の某種を惜しげも無く捨てさる。辛うじて澤田氏が2頭目をキープしていたものの、ホロタイプは失われてしまった。

☛医王山の二俣から全国へカブトムシが送られているのを知っているだろうか。沖縄から北海道まで医王山のカブトムシが進出しているのは頼もしいが、生きていただけに恐ろしくもある。

☛9月28日未明、大型台風19号が県内を通過。大変な暴風はあちこちの屋根を飛ばし、大木や電柱もバタバタ倒れた。

☛9月29日松井氏、能登へ出かけるも台風被害で林道は何処もかしこも倒木で不通。しかたなく海岸付近へ行っところ、ウスイロコノマがいたのでした。

☛10月3日中西、井村の新キノコ組、仕事をさぼってマイタケ探し。悪事がたたってスズメバチに刺される。

☛10月10日高野氏、高速を飛ばし米原での採卵を計画。ところが訳ありで、小松から引き返した。

☛10月11日松田氏、久しぶりの好天に誘われ午後より休暇。辰口は坪野辺りでツマグロヒョウモン複数を観察。

☛10月12日井沢氏、来沢するも14日には早くもマミちゃんの待つバリ島へ帰って行った。

☛10月31日写真集の第1次選考終了。予選通過は推定千枚と大変な数におよび、百十数種しかいない蝶がなんと百種も撮られていた。

☛ウスイロコノマが各地に出没。富山では電車に乗ってきたとされる1頭が駅の地下道で採集され、諏訪ではギャンブル好きの1頭がパチンコ店で採集されている。県内の記録も2桁に達した。

☛11月3日松井、上田、井村の3氏、釈迦林道で家族サービス。まれに見る好天の1日でした。

☛11月4日高野氏、福岡は太宰府の宝満山。採卵とオサ掘のふたまたをかけるが、またもや訳ありで戦果は上がりず。

☛11月8日辰口産のツマグロヒョウモン幼虫がばらまかれる。ばらまかれた方はスマイレ探しで大わらわ。それもそのはず、幼虫は2齢、その数200。

☛11月10日井村、中西、野中のキノコトリオ、白峰方面へ。大杉谷のムラサキシメジに味をしめ、釈迦林道へまわったものの、ゲートの鍵が潰されていて入れず。

☛11月10日松井氏、雨が降ってすることも無く、嵯峨井宅へ暇つぶし。ところが先客がいて、標本を枕にのんびり昼寝を楽しんでいた。

☛11月16日写真集の2次選考終了。1000枚を350枚まで圧縮。午後2時から始まった選考会はなんと翌日まで続いたのであった。

☛11月16日上田氏、東北7日行脚を無事終了。福島、山形、宮城と朽木や崖を崩しまくったが、ピックルの破壊力はいまいちツルハシには及ばなかったらしい。

上田氏、来年用のオサトラ1000個とトラップ液は既に準備完了。体力から考えると1人1日1000個のセットが限度とかで、今から北海道行を心待ちにしている。

10月20日見上峠1♀、11月18日角間1♂、11月21日湯涌河内1♂、11月22日板ヶ谷1♂、これ熊の捕獲数。寒くなって民家周辺でも見られるようになってきました。目撃記録もいくつかありますので御注意下さい。

田中氏、相変わらずカンアオイの調査。たまには綺麗な斑入りも見つかり喜んでいる。

11月23日小幡氏、2ヵ月ぶりに体が空いたとかで、中宮は自然保護センター付近をぶらつく。昼頃ちよつと小雨がパラついたが、寒風の中フユシヤクの飛翔をカメラに収める。

11月23日吉村氏、庭のスマレも底をつき、平栗辺りへカミさんとスマレ捜し。

11月24日野中、中西、上田、井村の4氏、新潟は柿崎上下浜。巷では掘れないとされているセアカオサを3ヶタ掘り出す。

### 例 会 の 記 録

10月4日(金)城南管工2Fにて8時より開催。8月の昆虫展が大盛況(入場総数約1万人)の内に終了したことを報告し、須田喜一氏、高羽正二氏から寄付を頂いた事も報告。その後はスライド選考会となり、松井、野中、左合と映写。

参加は、野中、左合、松井、中西、下田(新入会員)、澤田、竹谷、指田、井村、勝海の10人。

## 目 次

嵯峨井淳郎：ウラギンシジミ吸水、吸汁例	1
江口元章：能登におけるシータテハの記録	2
勝海雅夫：ウラクロシジミの採幼について	3
松井正人：アサギマダラを26日後に再捕獲	4
竹谷宏二：ゴマシジミの早い目撃記録	4
井村正行：石川県のカミキリムシ科(その8)	5
野中勝・他：石川県の注目すべき甲虫数種の記録	8
指田春喜：B型のオラン・アスリーは可哀想	9
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10
編集部：例 会 の 記 録	11

とぶ NO.93

1991年12月6日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方  
百万石蝶談会  
☎ 0762-58-2727  
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所